

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00385

研究課題名(和文) 宗教モダニズムと文学モダニズムに関する研究

研究課題名(英文) A Research on Religious Modernism and Literary Modernism

研究代表者

金井 嘉彦 (KANAI, Yoshihiko)

一橋大学・大学院法学研究科・特任教授

研究者番号：60169539

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：19世紀末から20世紀初めに起こった宗教モダニズムは、重要な意義を持つものでありながらこれまで比較的目を向けられることがなかった。本研究は、第一に宗教モダニズムが提起した問題点とその展開を確認し、続いて、文学モダニズムの旗手といわれるアイルランドの作家ジェイムズ・ジョイスが作品に宗教モダニズムの時代を生き残った痕跡を大きく残していることを確認し、さらにはモダニズムの代表的な作家だけでなく、マイナーな作家にまで宗教モダニズムの問題が影を落としていることをアイルランド作家ジェラルド・オドノヴァンに見た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が着目した宗教モダニズムと文学モダニズムの関係は、そもそも未開拓の分野で、研究成果を論文として文学モダニズムの旗手ジョイスだけでなく比較的マイナーなジェラルド・オドノヴァンに確認できた意味は大きい。とりわけ、これにより、他の作家・作品を見ていく上でも同様の問題設定をすることを可能とし、これからの文学研究に新しい方法論を提供している点で大きな学術的意義を有す。さらには、本研究が見た、宗教モダニズムと文学モダニズムの関わりとは、神の存在と人間存在という普遍的な問題に関わるもので、それは「神を失った」現代において生きる我々にとってもヒントとなるという意味で重要な意味を有す。

研究成果の概要(英文)：Religious modernism, which took place from the end of the nineteenth-century to the beginning of the twentieth century, had great impacts on the age. Still, it has not been given the due attention, especially in the literary modernism criticism. I researched, firstly, on the problems and development of the religious modernism, secondly, on the relationship between the religious modernism and the works of James Joyce, the flag-bearer of literary modernism, and lastly, on the relationship between the religious modernism and the works of Gerald O'Donovan, who is religiously and literally more important than is usually regarded,

研究分野：アイルランド文学

キーワード：宗教モダニズム 文学モダニズム ジェイムズ・ジョイス ジョージ・ティレル ジェラルド・オドノヴァン イエス小説 イエス伝 ゴンビーン・マン

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

20世紀初頭の文学におけるモダニズムは有名だが、それに先行して同じ名で呼ばれる運動がもう一つあった。それは宗教モダニズムと呼ばれるもので、19世紀の間に蓄積された知の集積のもとにキリスト教、とりわけカトリックのあり方に大きな変容を迫るものであった。それは聖書のあり方、教会のあり方に根本から疑義を提示し、従来と全く異なった教会の有り様を提案した。

時代的にも宗教モダニズムが芸術上のモダニズムに先行していることは、いわゆる芸術上のモダニズムの時代に生きた作家が宗教モダニズムの影響を受けていたこと、より大きくは芸術上のモダニズムが宗教モダニズムを先例とした運動であったことを示唆する。実際、宗教モダニズムは、ジェームズ・ジョイス (James Joyce) といった20世紀を代表する作家から、ジョージ・ムア (George Moore) やジェラルド・オドノヴァン (Gerald O'Donovan) など、マイナーな作家たちに様々な影響を与えている。ところが、まずは宗教モダニズム自体がほとんど存在を知られることなく、それゆえに宗教と芸術で起こった二つのモダニズムの関係も、一部の研究者が部分的に取り上げることはあっても、ほとんど注目されない問題だった。

くわえて、おおむね21世紀に入る頃を境として、「資料のビッグバン」と呼ぶべき現象が、インターネット上において起こっていた。「資料のビッグバン」とは、pdfファイルの形でアーカイブ化され、利用可能となった資料の爆発的増加を指す。これにより、これまで一般に流通はおろか、入手することも不可能だった資料が、特別な図書館に行かなくとも、インターネット上で利用可能となった。これにより、研究は大きく歴史的に開かれることとなったが、多くの研究者や研究機関はこの現象に気づくことなく、あるいは応答することなく、従来の研究方法を取っていた。本研究は、「資料のビッグバン」によって求められる、新しい歴史的研究の必要から生じたものでもある。

2. 研究の目的

上述のように、宗教モダニズムは人々の精神世界を揺るがした革命的な出来事であった。その意味できわめて大きな意味合いを持つものであるが、文学研究においてはほとんど考慮に入れられていなかった。宗教モダニズムに言及することはあっても、それ以上踏みこむことはなく、宗教モダニズムが意味するところを汲み取っていなかった。本研究は、まずは宗教モダニズムがどのような運動であったかを確認し、続いて文学に与えた影響を確認すること、具体的には、文学モダニズムの旗手と言われるジェームズ・ジョイスと、マイナーな作家において文学的表現を与えられていく過程を見ていくことを目的とした。それにより、これまで十分に考慮されることのなかった宗教モダニズムが文学モダニズムの歴史的背景にあることを確認し、従来の文学モダニズム観に修正を施すことも視野に入れていた。くわえて、インターネット上で利用可能となった、これまで使用されることのなかった資料を利用することで、新しい歴史的研究法の提唱も目指した。

3. 研究の方法

方法としては以下の3段階を経た。

1) 宗教モダニズムの全体像理解。概説書だけではなく、当時出版されていた宗教モダニストの著作に直に当たることで、宗教モダニズムの全体像の把握を目指した。これまでに読み終えていた概説書や基本的文献に加え、宗教モダニストの個別の著作にあたることで、より細かい部分を押さえ、精緻化を図った。

2) ジョイスの著作における宗教モダニズムの影響の把握。ジョイスの『ダブリナーズ』の「姉妹たち」および『若き日の芸術家の肖像』における宗教モダニズムについてはすでに論文で扱っていたのをさらに発展させると同時に、ジョイスの代表作『ユリシーズ』への影響を見た。

3) ジョイス以外のマイナーな作家、具体的にはジョージ・ムア、パトリック・シーハン、ジョゼフ・ギナン、ジェラルド・オドノヴァン、ウィルフリッド・ウォード夫人、ハンフリー・ウォード夫人らの小説と宗教モダニズムとの関係を調べ、宗教モダニズムの影響を受けた作家たちの全体像の把握に努めた。

上記1)から3)を遂行するにあたっては、これまでは利用不可能であったが、昨今の「資料のビッグバン」によりインターネット上で新たに利用可能となった資料を、可能な限り利用することを試みた。

4. 研究成果

本研究の成果として以下を公表した。

- 1) 「二つの「スキュラとカリュブデイス」と、イエス伝 イエス小説 が語るイエスにならいてシェイクスピアを語るスティーヴン」『言語文化』第 58 巻 (2021) 3-25 ページ (その後単著 『ガラス越しに見るジョイス』に所収)
- 2) 「アキナスに刃を仕込む<応用>」『ガラス越しに見るジョイス』(言叢社、2022) 19-41
- 3) Michael Mayo, *James Joyce and the Jesuits* (Cambridge UP, 2020) の書評、*Joycean Japan* NO.33, pp.56-57
- 4) 「ジェラルド・オドノヴァンの『神父ラルフ』における反ゴンビーン・モダニズム」『言語文化』第 60 巻 (2023) 49-62 ページ

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 金井嘉彦	4. 巻 33
2. 論文標題 Michael Mayo, James Joyce and the Jesuits (書評)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Joycean Japan	6. 最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金井嘉彦	4. 巻 58
2. 論文標題 二つの「スキュラとカリュブディス」と、 イエス伝 イエス小説 が語るイエスにならいてシェイクスピアを語るスティーヴン	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『言語文化』	6. 最初と最後の頁 3-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15057/72551	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金井嘉彦	4. 巻 60
2. 論文標題 ジェラルド・オドノヴァンの『神父ラルフ』における反ゴンビーン・モダニズム	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 言語文化	6. 最初と最後の頁 49-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15057/82044	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 金井嘉彦	4. 発行年 2022年
2. 出版社 言叢社	5. 総ページ数 370
3. 書名 『ガラス越しに見るジョイス』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

歴史に開かれたジョイス
<https://ubuya.hatenablog.com/entry/2022/08/26/125742>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------